

足のくつを脱げ～しもべとして仕えよう～

(出エジプト記3章1～6節、使徒の働き7章19～36節)

姫路あけぼの教会 廣田守男

「ここに近づいてはいけない。あなたの足のくつを脱げ。あなたの立っている場所は、聖なる地である。」(5)

「わたしは、確かにエジプトにいるわたしの民の苦難を見、そのうめき声を聞いたので、彼らを救い出すために下って来た。さあ、行きなさい。わたしはあなたをエジプトに遣わそう。」(34)

「一年の計は元旦にあり」とあります。今年の1年間み言葉に聞き、み言葉によって生きることを追い求めましょう。

出エジプト記3章は「モーセの召命と応答」の記事です。モーセはエジプトから逃げて、ミデアンの荒れ野で祭司で舅イテロの羊を飼っていたのです。40年後に神様はホレブの山で「柴の中の火の炎の中に」モーセに顕現され、「聖なる地だからくつを脱げ」と命じられたのです。これは自分がしもべとして仕えることの決断なのです。神様はエジプトにおけるイスラエルの苦悩、叫びを聞いておられたのです。そこからの救助者として神様がモーセを用いようとされたのです。

神様は、エサウとイサクの許を逃れてリベカの兄ラバノの所に逃げている途上で「見よ。わたしはあなたとともにあり、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ戻そう。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。」と顕現され、「まことに主がこの所におられるのに、私はそれを知らなかつた」「この場所は、なんとおそれおおいことだらう。こここそ神の家にほかならない。ここは天の門だ。」と祭壇を築き、神様を礼拝したのです(創世記28:15-17)。更に、モーセの後継者ヨシュアがカナンの地を征服するために用いられましたが、エリコの城壁を前にして「あなたの足のはきものを脱げ。あなたの立っている場所は聖なる所である。」(ヨシュア5:15)と語られ、主を礼拝し、神様の使命のために用いられたのです。

使徒の働き7章では初代教会の「御靈と知恵に満ちた人」として選ばれた7人の一人ステパノが尋問された時、イスラエルの歴史をひもときながらイエス・キリストを証言している最中に石打ちで処刑され殉教した記事です。その中でモーセのことを「『だれがあなたを支配者や裁判官にしたのか』と言って人々が拒んだこのモーセを、神は柴の中で彼に現れた御使いの手によって、支配者また解放者としてお遣わしになったのです。」(35)と語ったのです。自分の情熱でエジプトからの解放者となるとしたモーセも碎かれ、御使いの手に用いられる歩みとして解放者の使命に与つ

たのでした。私たちも上からの力を与えられ、なすべき御業に用いられたい。